
プロジェクト	公正価値測定に関するガイダンス及び開示
項目	第 380 回企業会計基準委員会で聞かれた意見

本資料の目的

1. 本資料は、第 380 回企業会計基準委員会（2018 年 3 月 9 日開催）において審議した項目について、聞かれた主な意見をまとめたものである。

国際的な会計基準と整合を図ることに対する今後の進め方の検討（金融商品）

2. 利用者からは、IFRS 第 13 号におけるレベル別開示が有用であるとの意見が聞かれているが、これまで我が国では、レベル別開示への要望が必ずしも高くなかったと認識している。また、金融危機時において、レベル区分の残高開示が、本当に有用な情報を提供していたか、又は有用な情報を把握するための入口となる情報であったかという点について、議論を深める必要があると考えられる。
3. 利用者へのアウトリーチにより、IFRS 第 13 号で求められている開示が有用であるとの意見が聞かれていると理解したが、国際的な会計基準との整合性を図る取組みに着手する際には、レベル 3 の公正価値測定に関する詳細な開示だけでなくレベル区分の残高開示についても、コストと便益を比較衡量した詳細な検討を行う必要があると考えられる。
4. 国際的な会計基準との整合性や利用者にとっての有用性の観点を踏まえ、検討を進めていくことが考えられるが、現在 IASB が行っている IFRS 第 13 号の適用後レビューの動向も注視しつつ、手戻りのないように検討を進める必要があると考えられる。

以 上